

# マカラ・サンクランティ

## スワーム・インディラーナンダ

マカラ・サンクランティは、スーリヤ・デーヴァターの崇拝にささげられるインドの祝祭日です。スーリヤ・デーヴァターは太陽の神で、その光はこの惑星のすべての生命を育み維持します。この日は北半球の日が長くなる季節の始まりを告げ、太陽は北へと6カ月の旅を始めます。ウッタラーヤナと呼ばれるこの太陽の旅は、グルの恩恵によって内なる目覚めを授かった探究者にとっては、内側で起こるクンダリニー・シャクティの上昇を象徴しています。内なるウッタラーヤナでは、クンダリニーは探究者のそれぞれ異なるチャクラ、精神的なセンターを通して、輝く千の花びらのサハスラーラへ向かって壮大な旅をします。

マカラ・サンクランティは、太陽周期に基づいたインドの数少ない祝祭日の一つです。パンチャーンガとして知られるインドの暦によると、この祝祭日は大抵1月14日に行われます。

サンスクリット語のサンクランティは、「通路」という意味で、ヴェーダの占星術では、マカラは黄道十二宮のうち10番目の宮の名前です。マカラは神話に出てくる動物で、半分陸生、半分水生で、クロコダイルとしてよく描かれています。それは出入り口や敷居の番人と考えられています。

マカラ・サンクランティの期間、インド中の人々は、ダルマ、正義の体現である高貴な戦士ビーシュマ・ピターマハ(父祖ビーシュマ)をたたえます。インドの叙事詩、『マハーバーラタ』では、ビーシュマが激しい戦いで何千本もの矢に突き刺されて致命傷を負ったことが語られています。彼はダルマの人生を生きてきたので、クリシュナ神から自分が死ぬ時を選べるという恩恵

を授かりました。ビーシュマは、マカラ・サン克蘭ティに死ぬことを選びました。そうすれば彼の最後の旅は光の道に従うことになるだろうからです。矢のベッドに横たわり、太陽が北へ方向を変える縁起の良い時間を待っていた時、彼はおいの息子ユディシュティラに、崇敬されている教典、『シュリー・ヴィシュヌ・サハスラナーマ』を授けました。

マカラ・サン克蘭ティは、インドでは、再生の時としても祝われます。この時点から、日が長くなり、暖かくなっていきます。農民たちは、青々とした水田や、黄色い花の咲くカラシナや、サトウキビの緑や黄金色の茎に覆われた農村地帯での大豊作を喜びます。この豊熟した田畑を見渡した時に人が受ける印象は、無限に広がる黄金の大地です。インド中で人々がこの祝祭を祝いますが、地方によりさまざまな名が付けられています。それは、マハーラーシュトラ州、カルナータカ州、アーンドラ・プラデーシュ州、テランガーナ州ではマカラ・サン克蘭ティ、タミル・ナードゥ州ではポンガル、パンジャブ州やハリヤーナー州ではローリーとマギ、グジャラート州ではウタラナ、そしてアッサム州ではマーグ・ビフと呼ばれ、これらはほんのわずかな例にすぎません。

インドのシッダ・ヨーガ・アーシュラムであるグルデーヴ・シッダ・ピートウが位置するマハーラーシュトラ州では、マカラ・サン克蘭ティの日に、ゴマとジャガリー（砂糖の一種）で作られたラドゥーというお菓子を互いに贈るのが習わしとなっています。このお菓子を互いに贈り合いながら、マラーティー語で **तिळगुळ घ्या गोड गोड बोला**（ティルグル・ギヤー・ゴードゥ・ゴードゥ・ボーラー）——「このラドゥーを受け取ってください、そして優しく話してください」——と言います。この言葉の背後にある心情は美しいものです。それは、人々が世界に存在する優しさを今一度思い出し、苦々しいことを手放すことを後押しするのです。

インド中で、何千という人々が、たこ揚げをしてマカラ・サン克蘭ティの祝祭に参加します。祝祭の参加者たちは、老いも若きも、たこ揚げを競い合うこともよくあります。笑い声と活気にあふれ、参加する人にとっても観戦して応援する人にとっても楽しいものです。たこを揚げる人たちは皆、強い風が吹くことを祈り、たこを持ち上げ、たこを空に舞い上がらせます。それぞれが、自分のたこそがスーリヤ・デーヴァターに一番近づいてほしいと願っているのです。

その日は時間を追うごとに、青空が想像し得る限りのあらゆる色、形、デザイン、大きさの無数のたこで覆われます。そのモザイク模様を通して、太陽が壮麗に輝きます。それは、大地やその上に立つすべての人々を温める色の屈折です。それは素晴らしい光景です。

マカラ・サン克蘭ティを祝うのにふさわしい他の方法は、シッダ・ヨーガのナーマサンキールタナである「ナーラーヤナ」をチャンティングすることや、「スーリヤ・ガーヤトリー・マントラ」を朗唱することです。スーリヤ・デーヴァターをたたえるこのマントラは、数多いガーヤトリー・マントラの中で、最初から存在した最も重要なマントラであるアーディ・ガーヤトリーとしても知られています。このガーヤトリー・マントラを3回、11回、21回、または108回、(または、これらの数字の倍数や約数の回数)朗唱することは、特に縁起が良いと考えられています。シッダ・ヨーガの道のウェブサイト上にある、楽しくエネルギーに満ちたヴィバース・ラーガの「スーリヤ・ガーヤトリー・マントラ」の録音と共に朗唱することもできます。

